令和４年度　江戸川区立鹿骨東小学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	○思いやりのある子・・・互いの人格を尊重し、心豊かな子　自己肯定感の高い子の育成 ○健康で明るい子・・・安全で健康な生活を心がけ、体力のある子の育成 ○よく考えくふうする子・・・自ら学び、深く考える子の育成 ○ねばり強くやりぬく子・・・目標をもち、最後までやり遂げる子の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○　笑顔があふれる学校…児童が学ぶ楽しさが味わえ、成長を実感できる学校、保護者や地域にとって、誇りと信頼がもてる学校、教職員が教育者として喜びが味わえる学校を目指します。 ○　元気で活力ある学校…児童が健康・安全・安心にすごせる環境作りと体力向上を目指します。 ○　創造力のあふれる学校…児童も教職員も学ぶ意欲と創造力をもち、課題に挑む学校を目指します。
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞本校の教育全般については、学校評議員・地域関係者・保護者等からおおむね理解を得ることができた。おやじの会、図書ボランティア、グリーンボランティア、登校見守り、鹿骨東小学校ふるさと学習などについて地域や保護者と連携した教育活動を展開し、協働することができた。 ＜課題＞朝読書、放課後補習を日常的に行う体制を整え全校で取り組んでいるが、学力の数値目標が達成できていない。さらに特別支援教育の充実が課題である。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	放課後補習教室の実施…2年～6年生(30回) 各学期にﾍﾞｰｼｯｸﾄﾘﾙ診断テスト実施及び指導の工夫 家庭学習期間の実施：年4回 オンラインドリルスマイルネクストの利用	診断テストの平均正答率が一学期より5ポイントアップ 家庭学習カードの提出10割	B	B	家庭学習期間は予定通り実施できている。期間中各クラスの学習状況を担任が管理できている。家庭学習カードの提出率は8割程度に留まっている。診断テストで5ポイント以上アップしたクラスは16クラス中9クラスだった	B	・タブレットの更なる有効利用など、より児童が自主的に取組める工夫が必要と感じる。 ・家庭学習カード提出率が8割との事だが、出さない子の指導の仕方がどうなのか。	診断テストの結果をよりよいものにするために、前年度のおさらいをする必要がある。タブレットのオンラインドリルで1～6年生の学習をすることができるので、自習に使えることをより広く伝えるようにする。家庭学習カード提出を引き続き声を掛けていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等） ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	図書館を活用した探究的学習を取り入れた授業…各学期1回以上（12時間以上） 図書館スーパーバイザー、図書ボランティアの活用による学校図書館の整備の推進 図書館を使った調べる学習コンクールの参加 巡回指導員との連携	調べたことを成果物としてまとめられる児童9割 児童アンケートで学校図書館の活用に肯定的な回答9割	B	B	3年生から6年生までは夏休みの課題で調べる学習コンクールに児童全員が応募することになっている。ほぼ全員が自分で調べてまとめることができた。 児童アンケートで学校図書館の活用に肯定的な回答は75％ほどに留まった。タブレットなどで教室移動などをせず調べられることが原因として考えられる。図書で調べるよさもこれから指導していく必要がある。	A	・夏休みの課題について参考図書のサジェストなどが鹿骨図書館んと連携されているのは素晴らしく、一部しか拝見できていないが、児童の作品のクオリティも高いと感じた。 ・夏休みの課題(コンクール）がほぼ全員出来ている事は素晴らしい。これからは図書館利用の良さを教えることだと思う。	読書時間は、引き続き、朝と給食後に確保していき、授業に関連する本などを紹介していく。 探究活動については、図書資料とタブレット検索それぞれの利点を確実に指導し、意識的に使い分けられるようにしていく。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	計画的に行う密にならない体育の授業の実施 基礎体力向上動画の公開（運動委員会作成） 密にならない大縄大会週間の実施	児童アンケートで、運動を進んでしているに肯定的な回答児童8割（限定的）新体力テストにおいて、昨年度比が向上した児童9割	A	A	児童アンケートの結果は9割弱が肯定的な回答をした。今後も楽しく運動ができるように支援を続ける。	A	・長縄はシンプルですがチームワークの醸成に有効と感じる。 ・体力テストが昨年度比9割向上はすばらしいこと。	楽しく運動できるよう、日頃の体育や長縄大会などのイベントに今後も取り組んでいく。
	オリパラ教育の継続推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	「オリンピック・パラリンピック教育レガシープラン」に基づいた授業…35時間	児童アンケートでやり遂げた喜び・将来への夢や希望に肯定的な回答9割 国際理解・障碍者理解、スポーツに興味・関心が高まった児童9割	B	B	児童アンケートの結果は9割強が物事を最後までやり遂げた経験があると答えた。オリンピック・パラリンピックが終わったが、今後も様々なことに興味をもたせたい。	A	・感染症の影響で体験をさせられなかったことが本当に悔しい。 ・スポーツに興味関心がある子が9割いることは頼もしい。	スポーツに対してだけではなく、ボランティアマインド、障害者理解、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚等も計画的に行っていく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	昼休みにおけるハロータイム(英語遊び）の活用 外国語専門講師との緊密な連携	児童アンケートで英語の学習が楽しいと答える児童9割	A	B	児童アンケートの結果では85％程度が英語の授業が楽しいと答えている。ハロータイムの工夫をこれからもしていく。	A	・家庭でも英語の話題が増えてきている。 ・85％授業が楽しみとはいいと思う。	ハロータイムなど興味関心をもって取り組む活動、ゲーム形式の活動をこれからも確保する。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	Q-Uの実施…年間2回（1回は学校独自調査） いじめ未然防止授業…各学期1回以上 いじめ防止「東っこ行動宣言」の作成掲示…通年 SOSの出し方指導…5年生年1回 校長講話…年3回　児童アンケート…年3回 生活指導夕会による情報共有…毎週金曜日 ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰの全員面接…全学年 SSWの活用…全学年 「学級SNSルール」・「東小子どもルールブック」・「東小家庭学習の手引き」・「東小家庭学習がんばりカード」の作成と活用…年4回 情報モラルについての学習…各学年1回以上 学年単位のあいさつ運動…年6回以上 挨拶マスターの実施…年3回	児童アンケートで地域や学校で挨拶をしているかについて肯定的な回答が9割 学校満足度調査（Q-U）による満足群の割合が全国平均を超える学級9割 いじめの早期解決　継続0％ 不登校継続数昨年度比減少	A	A	児童アンケートの結果、9割強の児童が挨拶をしていると答えた。 Q-Uの結果、満足群が全国平均を超える割合は9割に届かなかった。 いじめの早期解決はふれあいアンケートなどでできている。継続観察中は9件あるが、重要なものはない。 不登校児童は少なくなっている。 これからも引き続き健全に育成できるように各アンケート結果を活かすなど支援を続けていく。	A	・引き続き地域の連携強化に努める。 ・挨拶ができているの95％となっているが、実際はどうか。不登校児童が少なくなっていることは良いと思う。1クラス何人ぐらいか。	・Q-U1回めの分析を丁寧に行い、それを後半の指導に生かしていく。2回目の調査において確認し、さらに改善点があれば、3学期に生かしていく。 ・日常の連携を堅持しつつ、いじめまたはいじめと疑われる状況が見られた場合は、即座に「いじめ対策委員会」を立ち上げるなど組織的に対応していく。 ・実際に挨拶をしている児童は多くいるように感じる。担任や校長以外の職員、訪問者などに挨拶できればよりよくなるので、児童に声をかけていく。完全な不登校児童は1名である。SSW、SC、担任が連携して取り組んでいる。
特別支援教育の推進	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進	専門員・SC・心理士・巡回指導教員・担任との連携…各学期授業参観・適時 授業のユニバーサルデザイン化の推進 個別の教育支援計画・個別指導計画の作成と活用	児童アンケートで学校生活に肯定的な回答8割 学級崩壊なし	A	A	児童アンケートの結果、ルールを守って生活できている児童が95％程度いる。また、各学級も落ち着いて学校生活を送ることができている。今後も児童の細かな変化を見落とさないよう、取り組んでいく。	A	・95％は良いと思う。あとの5％をどうするか。今後も頑張ってほしい。	SCなど専門家からの指導を受け、教員一人一人の指導力の底上げを図っていく。 エンカレッジルームの有効活用と共に校内委員会等で情報を共有し、全職員で組織的に対応するように引き続きしていく。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	年2回の学校関係者評価の実施 年末年始に次年度での改善事項の選定	教員アンケートで昨年度の反省が生かされているに肯定的な回答8割	B	B	まだ、教員アンケートがされていないため、評価が難しいが現在大きな課題は見当たらない。	A	・児童ファーストの姿勢がより強化されていると感じる。 ・学校関係者からの評価は良いと思う。	学校関係者からの評価は概ね良い評価をいただいている。今後も改善・充実を図る。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携教育プログラムに基づいた小中の授業協議…年3回 うち6年生の体験授業・部活体験の実施連携…年1回	児童アンケートで中学生になることに希望をもつ児童（6年）9割	B	A	児童アンケートの結果、中学生になることに希望をもつ6年生は95％いる。部活体験は実施できなかった。	A	・保護者、PTAの連携があっても良いかもしれない。 ・残りの5％が心配。	中学校との連携は中学校側から学校紹介VTRをいただいて小学校児童の希望に繋がった。これからも工夫をしていく。
	地域を生かした教育の推進	地域の自然や人材を活用した教育活動の実施	PTAと協働した鹿骨東小ふるさと学習プログラム…各学年1回 地域を活用した学習…各学年年1回 学校応援団の活用	児童アンケートで地域の人や自然の良さを感じる児童9割	A	A	児童アンケートの結果、地域の人や自然の良さを感じている児童は95％いる。これからも大切にしたい。	A	・PTA役員、おやじの会、応援団の活動認知をより一般の保護者に伝えられるよう何かできることはないか。	地域あっての学校と考え、「ふるさと学習」等を最重要活動として今後も行っていく。
	SDGs教育の充実	持続可能な社会を創造することを目指す教育活動の実施	もったいない運動の取組実施全学年 環境を考える学習：各学年1回以上	児童アンケートでもったいない運動への参加に肯定的な回答8割	A	A	児童アンケートの結果、もったいない運動にすすんで取り組んだ児童は9割強おり、浸透している。	A	・他地域とのオンライン環境での交流は良い思います。	SDGsを起点として、カリキュラムマネジメントを行い、児童の自主的な活動を促すようにしていく。